

26. ユネスコ無形文化遺産

最近「明治日本の産業革命遺産」がユネスコの世界遺産に登録されるか否か韓国と政治問題化し揉めた。「和紙」や「和食」は世界遺産とは言わず無形文化遺産である。

今、私の関心は犬山祭を含む「全国山・鉾・屋台連合会」33の祭がユネスコの無形文化遺産に登録されるかどうかという事である。この組織は国の重要文化財に指定された曳山系の祭保存会で構成された団体だが、33の祭の中で、京都祇園祭と日立風流物がすでにユネスコの無形文化遺産に登録されていた。すると高山祭と秩父夜祭が自分のところも当然指定になる資格があると言い出し、33一括で登録を目指そうという事になった。

ユネスコは1945年第2次世界大戦の終結と同時に生まれた国際連合の教育・科学・文化担当機関である。世界遺産は1972年から始まったが、無形文化遺産は2006年から始まった文化運動であるから歴史は浅い。

世界遺産は有形の文化財を指定するものであるが無形文化遺産は口承伝統・芸能・フォークロアなど、文字通り無形の文化財を指す。無形文化遺産としてすでに登録されているものは能・文楽・歌舞伎・和食・和紙等々22件ある。

文化庁文化財部長をしていた寺脇健さんは欧州が始めたユネスコ基準の世界遺産など有難がるなという。富士山は世界遺産に登録されたとたん登山客が増えゴミの山が残るし、飛騨の合掌村もこれ以上観光客が来たら生活が壊されると悲鳴を上げる。世界遺産とは観光会社の飯櫃となりかけている。

一方、「NPO日本の祭ネットワーク」が日本中の祭に呼びかけてユネスコ無形文化遺産登録を目指す運動を始めた。このNPOは毎週全国各地の祭を扱ったTV番組や「日本の祭」という季刊誌の発行に関係している。この組織の原動力になっているのはダイドードリンコ株式会社であり、理論的学者はエジ

プト研究の吉村作治さんだ。

ところが「全国山・鉾・屋台連合会」のメンバーはこのNPOには入会しないよう指示が出た。日本中に祭と名のつくものの統計はないし又調べようがない。何でもかんでもこのNPOに入会したものをユネスコの無形文化遺産に登録することは事実上不可能だ。だから、こういう動きは「全国山・鉾・屋台連合会」にすると自分たちの運動に水を差されるような気になるのだと思う。

日本の祭はすべて本質的には差異はない。全国どの祭も日本人の生き方を引き継ぐ先祖と自然を崇拝する多神教の信仰心に満ちた神事である。しかし、どんなことでもそうだが、何か客観的な資格のようなものも取ろうとするとマニュアル化された基準が要求される。

ユネスコの無形文化遺産登録なんてどうでもいいことではないか。そんなもの全く関係ない、観光客が押し寄せない祭に本物はいくらでもある。